

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第124号(2017. 7. 1)
事務局 川西地区自主防災会

台風や集中豪雨から身を守るために
「気象警報・注意報をより見やすく！より分かりやすく！」
気象情報が変わります。

高松地方気象台・防災気象官 平井明宏

香川県といえば「他の県に比べると気象災害が少ない」といったイメージがありますが、過去には昭和51年9月の小豆島豪雨による土砂災害、平成16年の相次いだ台風による大雨や高潮災害がありました。最近では、平成26年8月の広島市で発生した土砂災害、平成27年9月の関東・東北豪雨、昨年も相次いで接近・上陸した台風と前線による東日本から北日本にかけての大雨など毎年、日本のどこかで甚大な災害が発生しています。



近年は雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しています。気象庁ではこれらを「新たなステージ」と捉えて、「新たなステージに対応した防災気象情報の改善」を行います。

■ひとたび起こると命に危険が及ぶ警報級の気象現象について、可能性が高くなるとも発生のおそれを積極的に伝えます

香川県内において雨・雪・風・波を対象に警報級の現象が5日先までに予想される時に、その可能性を「警報級の可能性」としてお知らせするもので、今年の5月17日から気象庁ホームページで提供を始めた新しい情報です。警報級の現象となる可能性が高いことを示す「高」、「高」ほどは可能性は高くないが普段より一段上の対応を呼びかける「中」も発表します。

毎日、朝5時、昼11時、夕方17時の一日3回、気象庁ホームページで天気予報と同時に提供します。特に深夜や早朝に警報級の現象が起こると避難することが難しいことがあります。翌朝までに「高」・「中」が予想されたら、今後の気象情報に留意し早め早めの対応をとってください。スマートフォンからもご覧になれますので是非活用してください。

また、週間天気予報に加えて「警報級の可能性」をご確認いただき、前もって防災への心積もりをしていただきたいと思います。行事やイベント開催の判断にもご活用ください。

香川県の警報級の可能性

イメージ

香川県では、4日までの期間内に、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。
また、4日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

今日～明日
・天気予報と合わせて発表
・時間帯を区切って表示

明後日～5日先
・週間天気予報と合わせて発表
・日単位で表示

香川県		8/3 17:00発表					8/3 17:00発表			
種別	警報級の可能性	3日		4日			5日	6日	7日	8日
		明け方まで		朝～夜遅く						
		18-24	0-6	6-12	12-18	18-24				
大雨	警報級の可能性	中		—			—	—	中	—
暴風	警報級の可能性	—		高			—	中	高	—
波浪	警報級の可能性	—		高			—	中	高	—

[高]: 警報発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況。
[中]: [高]ほど可能性が高くないが、警報を発表するような現象発生可能性がある状況。气象台が発表する今後の情報に留意。

今日～明日

前日の夕方の段階で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早朝までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！

明後日～5日先

数日先の荒天について可能性を把握することができる！

■危険度やその切迫度を認識しやすくなるよう、分かりやすい情報を提供します

これまで气象台の発表する注意報・警報は、大雨や強風の予想される期間や雨の量、風の強さなどの予想値を文章でお知らせしてきましたが、危険度や切迫度が伝わり難いとの課題がありました。5月17日からはこれまでの文章形式に加えて、今後の危険度の高まるタイミングが即座に一目でわかるよう危険度に応じて色分けした時系列を気象庁ホームページでご確認いただけるようになりました。

これまで

平成〇年〇月〇日 〇時〇分〇〇地方气象台発表
〇〇市

【発表】 暴風、波浪警報、大雨、雷、濃霧注意報
【継続】 高潮注意報

特記事項 浸水注意
8日昼前までに大雨警報（浸水害）に切り替える可能性がある
8日明け方までに高潮警報に切り替える可能性がある

風 警戒期間 8日明け方から8日夕方まで
注意期間 8日夜遅くにかけて以後も続く
ピークは8日昼過ぎ
北の風
陸上 最大風速 2.5メートル
海上 最大風速 3.0メートル

波 警戒期間 8日明け方から8日夜遅くにかけて以後も続く
注意期間 8日夜遅くにかけて以後も続く
ピークは8日昼過ぎ
波高 9メートル

浸水 警戒期間 8日昼前から8日夕方まで
注意期間 8日明け方から8日夜のはじめ頃まで
1時間最大雨量 5.0ミリ
注意期間 8日明け方から8日夜遅くまで

高潮 警戒期間 8日9時頃から8日24時頃にかけて以後も続く
注意期間 8日24時頃にかけて以後も続く
ピークは8日15時頃
最高水位 標高 2.0メートルの高さ

突風 注意期間 8日明け方から8日夜遅くまで
規模 200メートル以下

付加事項 突風 ひょう

(警戒が必要な期間と、ピーク量・時間帯のみを記載。)

改善後

平成〇年〇月〇日 〇時〇分〇〇地方气象台発表
〇〇市

【発表】 暴風、波浪警報、大雨、雷、濃霧注意報
【継続】 高潮注意報

8日昼前までに大雨警報（浸水害）に切り替える可能性がある
8日昼前までに高潮警報に切り替える可能性がある

発表中の警報・注意報等の種別	今後の推移 (■警報級 □注意報級)										備考・関連する現象
	7日 21-24	8日 0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	24-27	
大雨 1時間最大雨量 (ミリ) (浸水害)	10	10	30	30	50	50	50	30			浸水注意
暴風 風向 風速 (矢印、メートル)	陸上 13	18	27	27	27	27	18	15	13		以後も注意報級
波浪 波高 (メートル)	海上 20	27	27	27	27	27	20	20	20		以後も注意報級
高潮 潮位 (メートル)	0.7	0.7	0.8	1.0	1.8	2.0	1.8	1.2	1.2		以後も警報級 ピークは8日15時頃
雷											突風、ひょう
濃霧											規模200メートル以下

今後の危険度の高まりを即座に把握できる！

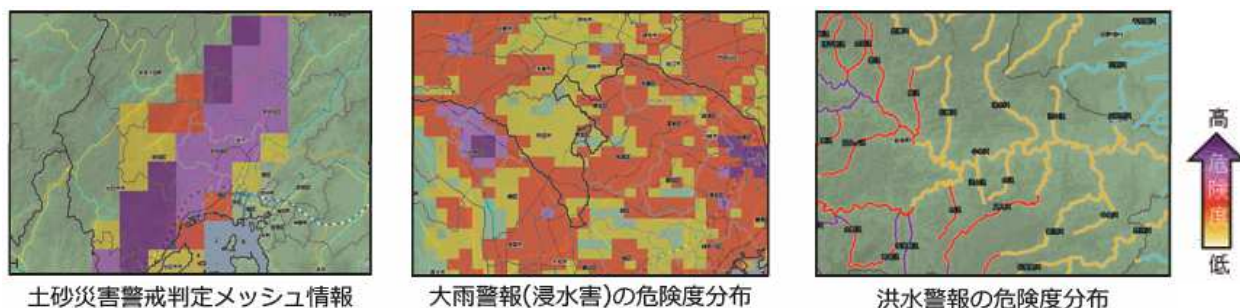
平成29年5月17日から提供開始

■お住まいの地域の危険度をお知らせします

大雨による土砂災害の危険度を表す情報として、土砂災害警戒判定メッシュ情報を気象庁ホームページで提供しています。7月4日からは大雨による床下・床上などの浸水害の危険度がどの地域で高まっているかを地図上に表す「大雨警報（浸水害）の危険度分布」、どの川のどの地域で洪水害の危険度が高まっているかを地図上に表す「洪水警報の危険度分布」を新たに提供します。

危険度は黄→赤→薄い紫→濃い紫の順に高く、危険度分布を見れば自らの地域に迫る危険度の高まりを一目で把握できます。

大雨警報・洪水警報、土砂災害警戒情報は市町単位で発表します。警報等が発表された時には、お住まいの市町のどこで土砂災害や浸水害、洪水害の危険度が高まっているかを危険度分布で確認していただき、適切な防災対応に役立てていただきたいと思います。



■土砂災害・浸水害・洪水害に警戒を呼びかける主な情報

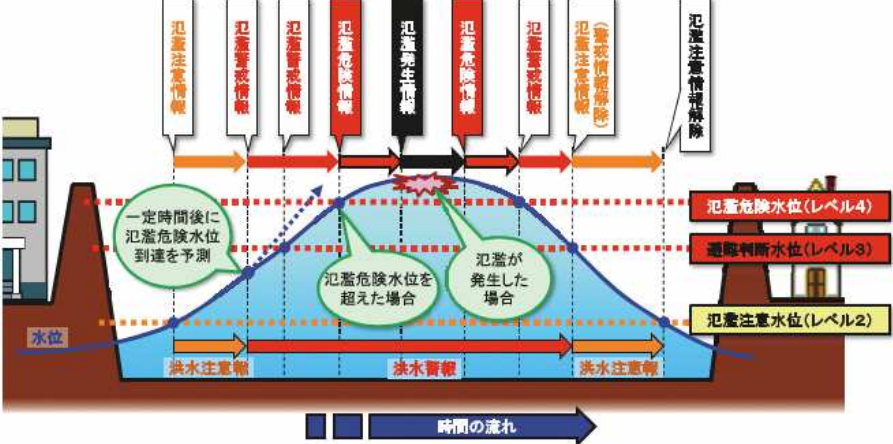
土砂災害

大雨警報(土砂災害)	大雨による重大な土砂災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。雨が止んでも、重大な土砂災害等のおそれが残っている場合には、発表を継続します。
土砂災害警戒情報	大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生危険度がさらに高まったときに、市町村長の避難勧告等の判断を支援するよう、また、住民の自主避難の参考となるよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。
土砂災害警戒判定メッシュ情報	大雨警報(土砂災害)や土砂災害警戒情報等が発表されたときには、土砂災害警戒判定メッシュ情報により、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。5km四方の領域(メッシュ)ごとに土砂災害発生危険度を5段階に判定した結果を表示しており、危険度の高まりを面的に把握することができます。避難にかかる時間を考慮して、危険度の判定には2時間先までの雨量予測に基づく土壌雨量指数等の予想を用いています。

浸水害

大雨警報(浸水害)	大雨による重大な浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。
大雨警報(浸水害)の危険度分布	大雨警報(浸水害)等が発表されたときには、大雨警報(浸水害)の危険度分布により、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。1km四方の領域(メッシュ)ごとに短時間強雨などによる浸水害発生危険度を5段階に判定した結果を表示しており、危険度の高まりを面的に把握することができます。危険度の判定には1時間先までの雨量予測に基づく表面雨量指数の予想を用いています。

洪水害

洪水警報	河川の上流域での大雨や融雪によって下流で生じる増水や氾濫により重大な洪水害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。
洪水警報の危険度分布	洪水警報等が発表されたときには、洪水警報の危険度分布により、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。上流域に降った雨により、下流の対象地点の洪水発生危険度を段階的に判定した結果を表示しており、危険度の高まりを把握することができます。危険度の判定には時間先までの雨量予測に基づく流域雨量指数等の予想を用いています。
指定河川洪水予報	<p>河川の増水や氾濫などに対する水防活動の判断や住民の避難行動の参考となるように、気象庁は国土交通省または都道府県の機関と共同で、あらかじめ指定した河川(洪水予報河川)について、区間を決めて水位または流量を示した洪水の予報を行っており、これを指定河川洪水予報と呼んでいます。</p> <p>標題には、氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報の4つがあり、河川名を付して「○○川氾濫注意情報」「△△川氾濫警戒情報」のように発表します。</p> 
水位周知河川の水位到達情報	洪水予報河川以外の河川で、国土交通大臣、都道府県知事が、あらかじめ指定した河川(水位周知河川)について氾濫危険水位等に水位が到達したときに発表する情報を、水位到達情報と呼んでいます。「○○川氾濫危険情報」のように発表されます。

■ 雨の強さと降り方・風の強さと吹き方

気象情報で「1時間に60ミリの非常に激しい雨が・・・」「風速25メートル以上の非常に強い風が・・・」といった予報用語が使われます。この用語から屋内外での様子などがイメージできれば、事前の災害対策や避難行動に役立てることが出来ます。

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険	

風の強さと吹き方

平均風速 (m/s)	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～35未満	35以上～40未満	40以上～
おおよその時速	～50km	～70km	～90km	～110km	～125km	～140km	140km～
風の強さ(予報用語)	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
速さの目安	一般道路の自動車		高速道路の自動車		特急電車		
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。		
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	電線が鳴り始める。看板やトンネル板が外れ始める。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。		
走行中の車	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	通常で速度で運転するのが困難になる。		走行中のトラックが横転する。		
建造物	樋(とい)が揺れ始める。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	
おおよその瞬間風速 (m/s)	20		30	40	50	60	

■最後に

災害から命を守るためには、まず自分の身のまわりにどのような危険（土砂災害・浸水害・洪水害等）があるのか事前に確認しておくことが重要です。その上で災害に対してどのような避難行動をとる必要があるのかをしっかりと認識しておくことや防災気象情報の入手方法を知っておくことも大切です。

気象庁は、発表した防災気象情報を自治体や防災機関に直ちに伝達すると同時にテレビやラジオ、インターネット等を通じて広くお知らせしています。

最近では携帯電話やスマートフォン、パソコン等を用いて一人ひとりが必要な防災気象情報を自分から入手できる環境が整ってきています。

段階的に発表される防災気象情報を活用いただき、早め早めの防災対応をこころがけていただければと思います。

～気象庁の防災情報について詳しく知るには～

- ・ 気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/>
- ・ 高松地方気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/takamatsu/>

～香川県の防災について詳しく知るには～

- ・ かがわ防災Webポータル <http://www.bousai-kagawa.jp/>

今月は、岩崎会長より原稿を寄せていただきました。

< 高知県の小中学校訪問 >

先日、「ざぶん賞」活動の普及のため、高知県の小中学校訪問してまいりました。ざぶん賞とは、日本全国の小中学生による「水」に関する文章を募集し、小中学生の皆さんに水を中心とした自然環境を大切にする行動や生活を営んでいただくことをテーマとした取り組みです。この活動は2002年から始まり、当初はジャーナリストであった築紫哲也氏がリーダーで始めました、その後、東京大学名誉教授の月尾嘉男氏が実行委員長をされています。月尾先生とは自然塾を通して平成11年からお世話になっており、お誘いいただき、昨年からの「ざぶん賞」に加わっております。



なぜ高知県？と申しますと、ざぶん賞の創設から16年経過しますが、高知県からの応募はゼロの状態が続いております。ご存じのように高知県は四万十川、仁淀川、さらに物部川、安田川と美しい河川を擁しながら小中学生からの応募が無いことは、とても残念なことであり、又「ざぶん賞」の認知度がないということでもあります。これではいけないと5月10日、5月19日と土佐市、南国市、香美市の小中学校を訪問してきました。訪れたほとんどの学校が丁寧に対応くださいました。

又、運動場の広さや周囲の自然環境を重ねてみると、さすが坂本龍馬、中岡慎太郎を拝した土地柄だと感じとりました。更に気づいたことは、農業用水路、昔ながらの風情を残しています。両岸は石積みそのまま、底面は小石まじりの砂、しっかりと小魚が泳いでおり、我が讃岐の3面コンクリートと大違いでした。このような自然環境での小中学生に素朴な文章を期待したいものです。

今月の事務局だよりは高知県内の小中学校巡りからのレポートです。

文責 岩崎正朔

尚、香川県内の小中学校廻りはかがわ自主ぼう連絡協議会約15名の皆さんと5月中旬から一か月かけて実施しております。

< 災害用トイレ設置完了 >

かねてより計画・準備をしておりました「災害用トイレ」が完成し、6月28日に市長、教育長、社協事務局長を招いて竣工式をとり行ないました。

容量的には640人槽×3基ということで、小学校体育館収容の避難者対応に十分機能できるものと確信しています。

本事業実施にあたっては、丸亀市、香川県共同募金会、並びに丸亀市社会福祉協議会からの助成金と川西地区皆様のカンパによって成し遂げられました。この誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。



又、竣工については、(株)協和土建殿、機器調達を三和建鐵(株)殿に大変お世話になりました。

編集後記

今月の防災減災の輪は、高松地方気象台・防災気象官 平井様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。